



Snapshotコピーからファイルをリストア

ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

目次

Snapshotコピーからファイルをリストア	1
NFSまたはSMBクライアント上のSnapshotコピーからファイルをリストアする	1
SnapshotコピーディレクトリへのNFSおよびSMBクライアントアクセスの有効化と無効化	1
Snapshotコピーから単一ファイルをリストアする	4
Snapshotコピーからファイルの一部をリストアする	5
Snapshotコピーからボリュームの内容をリストアする	6

Snapshotコピーからファイルをリストア

NFSまたはSMBクライアント上のSnapshotコピーからファイルをリストアする

NFSクライアントまたはSMBクライアントのユーザは、ストレージシステム管理者の手を借りなくても、Snapshotコピーからファイルを直接リストアできます。

ファイルシステム内のすべてのディレクトリには、NFSユーザとSMBユーザがアクセスできるという名前のサブディレクトリが含まれてい`.snapshot`ます。`.snapshot`サブディレクトリには、ボリュームのSnapshotコピーに対応するサブディレクトリが含まれています。

```
$ ls .snapshot
daily.2017-05-14_0013/          hourly.2017-05-15_1106/
daily.2017-05-15_0012/          hourly.2017-05-15_1206/
hourly.2017-05-15_1006/        hourly.2017-05-15_1306/
```

各サブディレクトリには、Snapshotコピーによって参照されるファイルが含まれています。ユーザが誤ってファイルを削除または上書きした場合、Snapshotサブディレクトリから読み書き可能ディレクトリにファイルをコピーすることで、読み書き可能な親ディレクトリにファイルをリストアできます。

```
$ ls my.txt
ls: my.txt: No such file or directory
$ ls .snapshot
daily.2017-05-14_0013/          hourly.2017-05-15_1106/
daily.2017-05-15_0012/          hourly.2017-05-15_1206/
hourly.2017-05-15_1006/        hourly.2017-05-15_1306/
$ ls .snapshot/hourly.2017-05-15_1306/my.txt
my.txt
$ cp .snapshot/hourly.2017-05-15_1306/my.txt .
$ ls my.txt
my.txt
```

SnapshotコピーディレクトリへのNFSおよびSMBクライアントアクセスの有効化と無効化

コマンドのCLIオプションを使用してSnapshotコピーディレクトリへのアクセスを有効または無効にできます。ONTAP 9.10.1以降では、ONTAP `-snapdir-access volume modify` Managerを使用してクライアントシステムからボリューム上のSnapshotコピーディレクトリへのアクセスを有効または無効にできます。アクセスを有効にすると、クライアントからSnapshotコピーディレクトリが認識され、WindowsクライアントからSnapshotコピーディレクトリにドライブをマッピングして、その内容を表示してアク

セスできるようになります。その後、NFSクライアントとSMBクライアントは、SnapshotからファイルまたはLUNをリストアできます。


ボリュームのSnapshotコピーディレクトリへのアクセスを有効または無効にするには、ボリュームの設定を編集するか、ボリュームの共有設定を編集します。

ボリュームを編集して**Snapshot**コピーディレクトリへのクライアントアクセスを有効または無効にする

手順

クライアントのSnapshotコピーディレクトリへのアクセスを有効または無効にするには、ONTAP System ManagerまたはONTAP CLIを使用します。デフォルトでは、ボリューム上のSnapshotコピーディレクトリにクライアントがアクセスできます。

System Manager

1. [ストレージ]>[ボリューム]*をクリックします。
2. 表示または非表示にするSnapshotコピーディレクトリを含むボリュームを選択します。
3. をクリック  し、*[編集]*を選択します。
4. 「* Snapshot Copies (Local) Settings *」セクションで、「* Show the Snapshot copies directory to clients *」を選択または選択解除します。
5. [保存 (Save)]をクリックします。

CLI

1. Snapshotディレクトリのアクセスステータスを確認します。

```
volume show -vserver <SVM_name> -volume <vol_name> -fields snapdir-  
access
```

例：

```
clus1::> volume show -vserver vs0 -volume vol1 -fields snapdir-  
access  
vserver volume snapdir-access  
-----  
vs0      vol1    false
```

2. Snapshotコピーディレクトリへのアクセスを有効または無効にします。

```
volume modify -vserver <SVM_name> -volume <vol_name> -snapdir-access  
<true|false>
```

次の例は、vol1でSnapshotコピーディレクトリへのアクセスを有効にします。

```
clus1::> volume modify -vserver vs0 -volume vol1 -snapdir-access  
true  
Volume modify successful on volume vol1 of Vserver vs0.
```

共有の編集による**Snapshot**コピーディレクトリへのクライアントアクセスの有効化または無効化

デフォルトでは、ボリューム上のSnapshotコピーディレクトリにクライアントがアクセスできます。

手順

1. [* ストレージ]、[共有]の順にクリックします。
2. 表示または非表示にするSnapshotコピーディレクトリを含むボリュームを選択します。
3. をクリックし、*[編集]*を選択します。
4. 「*共有プロパティ*」セクションで、「*クライアントによる Snapshot コピー・ディレクトリへのアクセスを許可する」を選択または選択解除します。
5. [保存 (Save)]をクリックします。

Snapshotコピーから単一ファイルをリストアする

コマンドを使用すると、Snapshotコピーから単一ファイルまたはLUNをリストアできます。 `volume snapshot restore-file`。既存のファイルを置き換えない場合は、読み書き可能な親ボリュームの別の場所にファイルをリストアできます。

タスクの内容

既存のLUNをリストアする場合は、LUNクローンが作成され、Snapshotコピーの形式でバックアップされます。リストア処理中に、LUNに対する読み取りと書き込みを実行できます。

デフォルトでは、ストリームを含むファイルがリストアされます。

手順

1. ボリューム内のSnapshotコピーの一覧を表示します。

```
volume snapshot show -vserver SVM -volume volume
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、のSnapshotコピーを示してい`vol1`ます。

```
clus1::> volume snapshot show -vserver vs1 -volume vol1
```

Vserver	Volume	Snapshot	State	Size	Total%	Used%
vs1	vol1	hourly.2013-01-25_0005	valid	224KB	0%	0%
		daily.2013-01-25_0010	valid	92KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0105	valid	228KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0205	valid	236KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0305	valid	244KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0405	valid	244KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0505	valid	244KB	0%	0%

7 entries were displayed.

2. Snapshotコピーからファイルをリストアします。

```
volume snapshot restore-file -vserver SVM -volume volume -snapshot snapshot
```

```
-path file_path -restore-path destination_path
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、ファイルをリストアし `myfile.txt` ます。

```
cluster1::> volume snapshot restore-file -vserver vs0 -volume vol1  
-snapshot daily.2013-01-25_0010 -path /myfile.txt
```

Snapshotコピーからファイルの一部をリストアする

コマンドを使用すると、一定範囲のデータをSnapshotコピーからLUNまたはNFS / SMB コンテナファイルにリストアできます `volume snapshot partial-restore-file`。ただし、データの開始バイトオフセットとバイト数がわかっている必要があります。このコマンドは、同じLUNに複数のデータベースが格納されているホスト上のいずれかのデータベースをリストアする場合に使用します。

ONTAP 9 12.1以降では、を使用するボリュームに対して部分リストアを使用でき [SnapMirrorアクティブ同期](#) ます。

手順

1. ボリューム内のSnapshotコピーの一覧を表示します。

```
volume snapshot show -vserver SVM -volume volume
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、のSnapshotコピーを示してい `vol1` ます。

```
clus1::> volume snapshot show -vserver vs1 -volume vol1
```

Vserver	Volume	Snapshot	State	Size	Total%	Used%
vs1	vol1	hourly.2013-01-25_0005	valid	224KB	0%	0%
		daily.2013-01-25_0010	valid	92KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0105	valid	228KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0205	valid	236KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0305	valid	244KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0405	valid	244KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0505	valid	244KB	0%	0%

7 entries were displayed.

2. Snapshotコピーからファイルの一部をリストアします。

```
volume snapshot partial-restore-file -vserver SVM -volume volume -snapshot
snapshot -path file_path -start-byte starting_byte -byte-count byte_count
```

開始バイトオフセットとバイト数は4、096の倍数でなければなりません。

次に、ファイルの最初の4、096バイトをリストアする例を示し`myfile.txt`ます。

```
cluster1::> volume snapshot partial-restore-file -vserver vs0 -volume
voll1 -snapshot daily.2013-01-25_0010 -path /myfile.txt -start-byte 0
-byte-count 4096
```

Snapshotコピーからボリュームの内容をリストアする

Snapshotコピーからリストアすることで、ボリュームを過去のある時点の状態にリカバリできます。System Managerまたは`volume snapshot restore`コマンドを使用して、Snapshotコピーからボリュームの内容をリストアできます。


タスクの内容

ボリュームにSnapMirror関係がある場合は、Snapshotコピーからリストアしたあとすぐに、ボリュームのすべてのミラーコピーを手動でレプリケートします。ミラーコピーを使用しないと、ミラーコピーを使用できなくなり、削除および再作成が必要になる可能性があります。

手順

以前のSnapshotコピーからリストアするには、System ManagerまたはONTAP CLIを使用します。

System Manager

1. [ストレージ]*をクリックし、ボリュームを選択します。
2. で、リストアする**Snapshot**コピーの横にある*をクリックし 、[リストア]*を選択します。

CLI

1. ボリューム内のSnapshotコピーの一覧を表示します。

```
volume snapshot show -vserver <SVM> -volume <volume>
```

次の例は、のSnapshotコピーを示してい`vol1`ます。

```
clus1::> volume snapshot show -vserver vs1 -volume vol1
```

Vserver	Volume	Snapshot	State	Size	Total%	Used%
vs1	vol1	hourly.2013-01-25_0005	valid	224KB	0%	0%
		daily.2013-01-25_0010	valid	92KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0105	valid	228KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0205	valid	236KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0305	valid	244KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0405	valid	244KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0505	valid	244KB	0%	0%

7 entries were displayed.

2. Snapshotコピーからボリュームの内容をリストアします。

```
volume snapshot restore -vserver <SVM> -volume <volume> -snapshot  
<snapshot>
```

次の例は、の内容をリストアし`vol1`ます。

```
cluster1::> volume snapshot restore -vserver vs0 -volume vol1  
-snapshot daily.2013-01-25_0010
```

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。